

山梨県歯科医師連盟 今回は2ページです。

連盟ニュース 第65号

□発行

山梨県歯科医師連盟 甲府市大手1-4-1

TEL: 055-252-6481 FAX: 055-253-0854

□発行人 一瀬 明 HP: <http://ydpf.jp>

□編集人 一瀬 明・馬場 康二

山梨県歯科医師連盟機関紙

日本歯科医師連盟 山田 宏 顧問(次期参議院議員比例代表候補者) が 歯科に関する新型コロナウイルスと口腔の関係について質問をされました。

<情報提供: 日歯連盟>

1. 令和3年3月19日参議院予算委員会歯科部分(抜粋) 山田宏議員発言記録

- 山田宏**: さて、コロナウイルス、この武漢コロナウイルスが発生して、分かって、蔓延して1年たちました。総理はこの間に歯科診療を受けられましたか。
- 内閣総理大臣(菅義偉君)**: 受けております。
- 山田宏**: それは受けていただきたいんですね。なぜかという、口腔ケアと、今やこのウイルス感染症との関係というものがだんだん明らかになってきております。
歯科の診療というものは、口を開けて飛沫も飛ぶし、感染リスクは高いと普通危惧されております。しかし、吉村大阪府知事は、1月19日に御自分のツイートでこのように書いています。この赤線のところですね。一方で利用者側がマスクができない環境にある歯科医院がある、大阪には5,500もの歯科医院があるがクラスター発生はゼロ、感染対策のたまものと思うが、何かある、何だろうと、こう書いてあるわけですね。何で大阪のこの歯科医院からはクラスターが発生しないのか、発生してもおかしくないのにと、こう書いてあるわけです。で、大阪はゼロということなんですけれども、全国的に見ると歯科診療所でのクラスター発生というのはどういう状況になっていますでしょうか。
- 国務大臣(田村憲久君)**: 同一の場所で2名以上の感染が起こった場合ということで、これ報道の資料等を一応集めて集計しておりますが、今まで、3月18日時点で、クラスターといいますか、2名以上の感染が出たというのは5,552件であります。ちょっと中身で、歯科医療機関があるかどうかというのは我々もつぶさに確認はいたしておりますが、私もいろんなところにお聞きしていますが、歯科の治療で感染が拡大したという事例、私は認識いたしております。個人的に聞いたのでは、他でうつって歯科で勤めている方がコロナに感染していたというような情報はありますけど、治療を介してうつったというような、そういう情報はまだ我々としては確認いたしております。
- 山田宏**: 病院では残念ながら幾つかのクラスターの報告がございました。歯科医院は飛沫も飛ぶしということで、みんなこれはリスク高いんじゃないかと思うけど、今の厚労大臣のお話だと、そういった形でのクラスターの発生というのは報告はないということでございました。吉村大阪知事は、何でだろうと、何かあるんじゃないかという、秘密が何かあるんじゃないかと、こう言っているわけですけど、何かあるんでしょう。
- 国務大臣(田村憲久君)**: 一つは、元から歯科医の皆様方、感染症に対して非常に注意深く対応いただいております。ですから、そういう対応がしっかりされておられるというのと、やはりこのコロナ等々が感染が拡大してから換気もしっかりやっていたということがあるんだと思います。感染症に対して非常に対応が注意深くやっていたという結果が一つこのような形になっているんだというふうに認識いたしております。
- 山田宏**: 非常にリスクが高いんじゃないかという強い意識が、感染予防に対して相当一生懸命やっていた結果だと私も思います。と同時に、やっぱり口腔ケアですね、口の中をやはり健康にしていけば、感染予防や重症化予防につながるんじゃないかという意見もあるんじゃないかと、私、吉村さんに電話して言いました。
それで、西村大臣、昨年、西村大臣は、5月25日、衆議院議院運営委員会で我が党の武部委員の質問に対して、去年です、5月の末ですね、三密回避が必要だと、何よりも睡眠を取ってきちっと食事をして規則正しい生活をしてほしいというのが前提で、こうした健康的な生活がいわゆる新しい生活様式の基礎に、様式の前提として、手洗い、うがい、マスクとともに歯磨きも非常に重要であると御答弁されています。その心は何でしょうか。

(2ページ目に続く)

(1 ページ目の続き)

○**国務大臣(西村康稔君)** : お答え申し上げます。まず、私も、日々クラスターの報告を受けておりますが、歯科の治療で感染が広がったという報告は今まで受けたことがございません。まさに感染リスクが高い中で、この歯科の治療を含めて、患者さんの健康管理に御尽力をされていることに敬意を表したいと思いますし、地域によってはPCR検査の検体採取なども行っておられます。御協力に感謝申し上げます。

その上で、御指摘のように、昨年答弁させていただいたんですけれども、私たちも基本的な感染防止策は徹底していく。マスク、手洗い、それから三密回避、それに加えて、その時申し上げたのがうがいであったり歯磨きということで、まさに歯科の関係者の皆様方が専門的な立場から口腔管理に御尽力をいただいて、その事が、例えば8020運動など、歯が健康であれば健康で長生きできると、こういったデータ、私どもの兵庫県の歯科医師会なども率先して発表しているところでもありますので、まさに健康管理の基本だと、歯の健康がですね、そういうふうに認識をいたしております。他方で、外出自粛などの影響で歯科の治療も非常に厳しい状況にある部分もあると思います。院内の感染防止を更に取り組みでいく、そうした取組に対して三次補正予算案で予算を計上しております、この部分御活用いただければと思いますし、また、年度内の未執行分については来年度も活用できるということも承知しております。

歯科の様々な歯科治療、医療を始めとして、健康管理に御尽力されていることに必要な支援をしっかりと引き続き行ってまいりたいというふうに考えております。

○**山田宏** : 冒頭申し上げましたように、口腔ケアと、それから感染予防、重症化予防等には関係があるんじゃないか。口腔ケアをすると、感染予防、重症化予防につながるというような国内外の学術論文が出始めています。一つお示しをしたいと思います。これは、ジャーナル・オブ・クリニカル・ペリオドオントロジーという歯周病についての国際的な権威のある学術雑誌に載ったものを私なりにそこから表にしたものであります。これを見ていただくと、歯周病がある人の重症化の割合というのは、歯周病がある人は検査数258のうち重症化したのが33人で、割合は12.8%、歯周病がない人は検査数310のうちコロナで重症化した人は7人、2.3%という、もう明確な差が出ていると。歯周病があると重症化しやすいと。

それから、歯周病がある人のリスクなんですけれども、これも挙げていまして、死亡する可能性が歯周病のない人と比べて8.81倍、人工呼吸器使用の人は4.57倍、集中治療室に入院する可能性は3.54倍、合併症発症の可能性が3.67倍と、このように歯周病あるなしで相当ほかの病気も悪化するということが発表されております。そういう意味では、クラスターの発生についても相当注意をしているというこの歯科の診療というものが、実は、やっぱり口は、栄養も入ってくるけどばい菌も毒もあり、大体、体の中には口から入るものなんです。だから、歯周病という、こういう炎症を起こしていると、そこから血管に入っていくわけですから、そういったことを考えますと、むしろ歯科は、口腔内のケアというものは、健診を控えるんじゃないかと、むしろ奨励した方が感染予防や重症化予防に私は直結していくんじゃないかと、こう思っております、そういった意味で、是非これ、歯科健診のむしろ奨励を政府の方でももらいたいと、こう思っているんですけれども、総理の御所見をお伺いします。

○**内閣総理大臣(菅義偉君)** : 私自身としては、口腔の健康の保持増進を図ることは、健康で質の高い生活を行う上で極めて重要な役割を果たしているというふうに認識しています。このコロナ禍においても国民の皆さんが必要な受診や歯科健診等を行うよう、国としても今働きかけをしているところであります。引き続き対応していきたい、このように思います。

○**山田宏** : 以上で終わります。ありがとうございました。

2. 令和3年3月19日参議院予算委員会

動画リンク <https://youtu.be/OGcrvhrQxGI>

※右記QRコードから読み込んでご視聴いただけます。

